



# 複雑性悲嘆 (CG) 研修会のご案内

本研修会は、複雑性悲嘆やそのリスクの高い人たちへの専門的なケアや治療について、検討や意見交換を行う場として、平成22年に立ち上がりました。今年で8回目になります。

第8回CG研修会では、家族療法をベースとしたPauline Boss博士の「あいまいな喪失(AL)」理論と介入方法を取り上げます。そして、あいまいな喪失の1つである認知症患者家族の事例に対し、博士から事前にコンサルテーションを受け、それをもとに参加者全員でディスカッションを行います。Boss博士の家族をみる視点は、さまざまな喪失の支援、複雑性悲嘆の支援を考える上で、多くの示唆に富んでいます。どうぞ奮ってご参加下さい。

## 「 第8回 複雑性悲嘆(CG)研修会 」

日時： 平成29年8月26日(土曜日) 午前11時～午後5時 (受付は10時40分より)

場所： 大阪 関西学院大学梅田キャンパス (大阪市北区茶屋町19-19 アプローズタワー14階)

1405教室 14階に会場がありますので、直接お越し下さい。

場所は右のURLでご確認下さい。 [http://www.kwansei.ac.jp/kg\\_hub/access/](http://www.kwansei.ac.jp/kg_hub/access/)

阪急梅田茶屋町出口より北へ徒歩 6～7分 JR大阪駅より徒歩10分

対象： 悲嘆のケアや治療に関わる専門職(看護師、医師、心理職、ソーシャルワーカー、教師等)、  
介護支援や家族支援に関わる専門職、関連領域の研究者・大学院生 など

研修費： 5000円 (当日、受付でお支払い下さい) 定員： 50名

内容： 第1部 午前11時～12時半

### 「 あいまいな喪失による悲嘆の複雑化を防ぐために： その家族へのアプローチ 」

甲南女子大学看護リハビリテーション学部 准教授 瀬藤乃理子

第2部 午後13時半～17時

### 「 Pauline Boss博士による事例検討会～認知症患者の家族への支援～」

コンサルタント： Pauline Boss博士 司会： 石井千賀子先生(TELLカウンセリング)

事例提供： 1) 尊敬する夫が高度認知症となり、在宅介護が難しくなった家族の事例  
～今、そして今後、家族をどのように支援していくのか～

ふじた医院 藤田祝子先生(医師)

2) レビー小体型認知症の妻を看取った夫とその家族の事例

～「その人らしさ」の喪失に家族はどう向き合うことができるのか～

彩都友誼会病院 緩和ケアチーム 畑祥子先生(臨床心理士)

**お申し込み**： 当日、配布資料を用意したいと考えておりますので、人数把握のため、事前に裏面の用紙をファックス  
(甲南女子大学 瀬藤研究室FAX番号 078-413-3629) して頂くか、もしくは同様の内容をEメール  
(瀬藤乃理子 [noriko@konan-wu.ac.jp](mailto:noriko@konan-wu.ac.jp)) にてお伝え下さい。「あいまいな喪失情報ウェブサイト」  
からインターネットでお申し込みも可能です。

**その他**： ・研修会終了後、懇親会を予定しています。どうぞご参加下さい。(17時半～19時)

・お問い合わせ先： 甲南女子大学 看護リハビリテーション学部 瀬藤乃理子(Eメールは上述)



<第1部 講師> 瀬藤乃理子

(甲南女子大学 看護リハビリテーション学部 准教授。保健学博士。)

神戸大学医学系研究科博士課程修了。心理学修士、保健学博士。「悲嘆・複雑性悲嘆のケアと治療」「マインドフルネス認知療法に基づく援助職向けストレスケア・プログラムの開発・検証」の研究を行っている。2011年の東日本大震災後、Pauline Boss博士と連絡をとり、JDGS(Japan Disaster Grief Support)プロジェクトの仲間とともに、渡米。「あいまいな喪失(AL)理論と介入方法」を学び、被災地で「Pauline Boss博士による事例検討会」を始める。また、「あいまいな喪失情報ウェブサイト( <http://al.jdgs.jp/> )」を立ち上げ、Boss博士の理論の普及活動を行っている。共訳書に「あいまいな喪失とトラウマからの回復(誠信書房)」、共著書に「ストレス学ハンドブック(創元社)」など。

<第2部 コンサルタント> Pauline Boss 博士

(ミネソタ大学名誉教授。家族療法家。あいまいな喪失理論の創始者。)

ミネソタ大学名誉教授。自身の体験から、「あいまいな喪失(ambiguous loss=AL)」に焦点をあてた独自の理論と介入方法を提唱。行方不明者家族、認知症患者家族など、あいまいな喪失に苦しむ家族に対し、多くの支援経験をもつ。9.11の米国同時多発テロの際にも、行方不明者家族を集め、大きな成果をあげた。著書に『『さよなら』のない別れ 別れのない『さよなら』(学文社)』、「認知症の人を愛すること:曖昧な喪失と悲しみに立ち向かうために(誠信書房)」、「あいまいな喪失とトラウマからの回復:家族とコミュニティのレジリエンス(誠信書房)」など多数。

日本では、東日本大震災以降、被災地の行方不明者家族や、原発問題などで故郷に帰還できない家族の支援に対し、コンサルテーションを継続している。あいまいな喪失をかかえる家族の「レジリエンス」に着目するその視点は、被災地の多くの支援者の支持を得ている。

<第2部 司会> 石井千賀子先生

(TELLカウンセリング、家族療法家。家族療法スーパーヴァイザー。)

家族療法家。JDGSプロジェクトのメンバーとして、「Pauline Boss博士による事例検討会」の企画・開催や、ALの支援の普及活動に関わる。Boss博士と親交が深く、「あいまいな喪失とトラウマからの回復(誠信書房)」を監訳。

-----  
受講申し込み書

フリガナ		ご職業 (職種)	
氏名			
ご所属	名称:		
連絡先	※○をおつけ下さい		勤務先                      ご自宅
	住所: 〒		
	電話:	E-mail :	
※研修会終了後の懇親会の参加希望※		希望あり	希望なし

FAX送信先: 甲南女子大学 瀬藤乃理子 FAX番号 078-413-3629



○「第8回複雑性悲嘆研修会」のウェブページができました。グリーフ&ビリーブメント研究会のウェブサイト( <http://gandb.net/> )でご覧いただけます。グーグルやヤフーなどの検索サイトでは、「複雑性悲嘆研修会」と検索すると、出てきます。

○CG(複雑性悲嘆)研修会の案内をご希望の方は、甲南女子大学の瀬藤 ([noriko@konan-wu.ac.jp](mailto:noriko@konan-wu.ac.jp)) までメールでご連絡下さい。